

カザフスタン・キルギス現地事情視察団概要報告

平成29年9月
日本・東京商工会議所

1. 訪問先： カザフスタン共和国 アスタナ
キルギス共和国 ビシュケク、カラコル、チョルポンアタ
2. 日程： 平成29年8月22日（火）～30日（水）
3. 目的： カザフスタン・キルギスの経済情勢を把握するため現地政府・現地商工会議所、日本大使館を訪問、現地市場視察を行う。ビジネスマッチングを通じて、訪問国との経済活動を促進させる。また、アスタナ万国博覧会を視察するとともに各国関係者に2025年大阪万博の紹介を行う。
4. 参加者： 伊藤紀忠団長（大阪商工会議所国際ビジネス委員会副委員長）をはじめ12名
5. 全体概要：



カザフスタンの首都アスタナは、黒川紀章設計の未来都市。20年で人口百万に

日本・東京商工会議所は、8月22日（火）から30日（水）まで、大阪商工会議所の伊藤紀忠国際ビジネス委員会副委員長（大洋㈱社長）を団長とする現地事情視察団を中央アジア・カザフスタンとキルギスに派遣、12名が参加した。

カザフスタンでは、川端一郎駐カザフスタン日本国大使を訪問、政府系投資貿易機関カザフインベストで「蜂蜜」「自動車部品」「建設・環境」の3分野に分かれてのビジネスマッチングを行った。アスタナ万博会場では、カザフスタン館、日本館のほか、キルギスブースを訪問し、同政府代表であるキルギス商工会議所のマラット会頭に2025年大阪万博誘致への協力を呼びかけた。



アスタナ万博の日本館は日本人のエネルギーや資源を活用する知恵を紹介

キルギスでは、ショルブラク村やアクサイ村でJICA指導のもと一村一品のフェルト製品を生産する現場を視察したほか、カラコルの一村一品活動の組合事務所兼作業場やショップ、カラコル養蜂業組合、同組合の養蜂現場などを訪問した。また、ビシュケクでは、キルギス商工会議所で3分野に分かれてビジネスマッチングを実施したほか、山村嘉宏駐キルギス日本国大使、JICAキルギス事務所、アラバエフ大学日本学院就職センター、経済省投資促進庁などを訪問した。



川端駐カザフスタン日本国大使

6. 結果概要

(1) 川端一郎駐カザフスタン日本国大使

カザフスタンは、天然資源依存からエネルギー以外への分野へ産業の多角化を図っているが、現時点では上手く軌道に乗っていない。地理的短所を長所につなげることで、輸送コストを上回る付加価値を付けることが課題。政治的には安定しており、2030年までに競争力

トップ50に入る目標をすでに達し、2050年までにトップ30の国に入ることを目指している。

(2) 山村嘉宏駐キルギス日本国大使

キルギスは、91年に独立し26年目。今年日本との外交25周年を迎えた。中央アジア5か国の中で唯一の民主主義国家。日本人と同じ祖先を持つと言われ、動作や仕草も日本人と似ているところがある。1人当たりGDPは1000ドル程度。クムトール鉱山が産出する金がGDPの10%、ロシアやカザフへの出稼ぎ労働がGDPの30%を占める。国内で雇用を賄う経済体制を作るのが目標。旧ソ連時代は大規模農業が確立していたが、独立後、土地が個人所有になりトラクターの共同利用ができなくなった。農業の基盤はあるので、食品加工や乳製品の品質向上などが今後有望だ。



山村駐キルギス日本国大使

(3) ビジネスマッチング

カザフインベストならびにキルギス商工会議所で参加者の業種にあった現地企業とのビジネスマッチングを実施したほか、キルギスでは、大使公邸においてキルギス日本ビジネス協議会のメンバーとの懇親会を山村大使主催で開催、同国主要経済人との交流を深めた。

(4) 個別訪問・懇談

JICAや在京大使館の紹介により、参加者が個別に企業や生産現場などを訪問した。

JICAの手配によりバラ農家の参加者がキルギスでバラ植栽の候補地を視察したほか、建設業の参加者が在京キルギス大使の紹介により石材業者を訪問。カザフスタンでは、同国最大の建設業者BIグループや環境アライアンスなどと個別に懇談した。



養蜂現場を視察

7. 貿易投資セミナーや事前勉強会の開催

今回の視察団派遣にあたり、在京大使館やJICAの協力により6月19日に参加者100名のキルギス貿易投資セミナー、同28日にカザフスタン貿易投資セミナー（同75名）を開催。参加者決定後は、参加者と共に両国の大使館を訪問し個別に訪問先での希望を伝え、参加者のニーズに合ったビジネスマッチングなどの活動ができた。



キルギス商工会議所マラット会頭と伊藤団長（右）



イシククル湖は琵琶湖の9倍



JICA 支援のフェルト作成は村の主婦の貴重な現金収入



カザフスタンの養蜂業者と商談